

日本語教育をどう考えるか -政策・社会・経済の視点-

神吉宇一

uichik1113@gmail.com

地域日本語教育の「体制整備」

「地域における日本語教育の在り方について
(報告)」

- 地域における日本語教育の内容や方法については、「日本語教育の参照枠」を踏まえ、「自立した言語使用者」であるB1レベルまでの「生活Can do」に基づく日本語教育プログラムを編成し、効果的・効率的に日本語を学び続けられる環境整備を目指して体制を整備することが求められる。

あれ?対話・交流で対等な住民関係を作るんじゃないの??
いきなり日本語レベルの話?



対等であることについて

a) 今ここで対等・平等な関係をつくる(対話・交流型日本語活動)

b) 将来も含めて社会全体で公正・平等な形が実現できる、そのために教育を通して日本語も学び進めていき、対話的に社会が構成されていく中で非母語話者もしっかりと社会に参加できる

a、b共に視野に入れて行う必要

でも…、地域ではaの範囲でしか議論できていない?

公的な地域日本語教育

共生社会の実現のために実施

1. 地域日本語教育への資源の配分
2. 地域日本語教育内の資源の配分

行政機関→1の議論が重要

日本語教育政策として国から提示されるもの→2関連がほとんど

- 日本語教育の参照枠
- 地域における日本語教育の在り方について

地域日本語教育を行うと…

- なにか起きるのか
- どんな地域社会が実現できるのか
 明るく、楽しく、しあわせな社会
- 「外国人の日本語教育に関する実態調査-地域における日本語教育を中心として-」（2023年1月20日総務省）
 →外国人のニーズがわからない問題

どういう視点で
日本語教育を見るか

